

「帝国とメディア史研究—満洲電信電話株式会社を事例に」

日 時：2016年6月9日（木）17:00-19:00

会 場：同志社大学室町キャンパス寒梅館6階会議室

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/muromachi.html>

問題提起者：本田毅彦（京都女子大学）

討 論 者：白戸健一郎（筑波大学）

司 会：福間良明（立命館大学）

企画の意図：

近年、ソフト・パワーに関する歴史研究や文化冷戦など冷戦期におけるメディア政策に関する研究が蓄積されている。だが、異なる文化的・民族的背景を持つ集団に対し、ハード・パワーではない形式で影響力を行使しようとする方法は、むしろ、帝国という多民族空間のなかでこそ重要であったはずである。本研究会では、2016年2月に公刊された白戸健一郎氏の『満洲電信電話株式会社-そのメディア史的研究』を手がかりに、これまで英領植民地インドに関する研究を進めてきた本田毅彦氏に問題提起をしてもらい、メディア文化と帝国が抱える研究課題について議論を深める。大日本帝国という多民族空間でいかなるメディア文化政策が展開されたか、そのメカニズムの特徴はいかなるものか、その歴史的意義は何かを議論し、共有する。戦前東アジアからのメディア文化政策史を振り返ることで、冷戦期や現代グローバル社会における多民族・多文化空間でのメディア文化の位置付けを見直すことができるであろう。